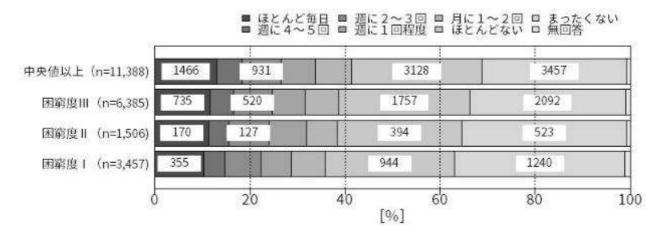
# 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (子ども票 問 10⑤)

## <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

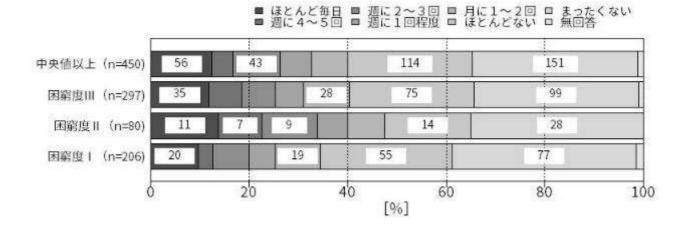
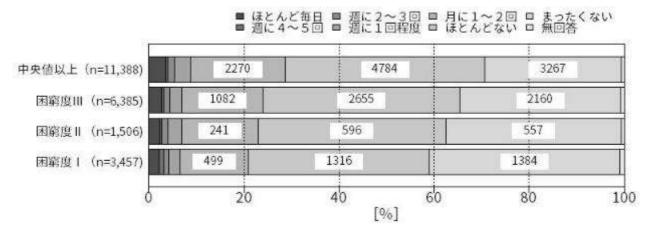


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

困窮度別に保護者と子どもの関わり(おうちの大人に宿題をみてもらうか)を見ると、困窮度 I 群では、「まったくない」が 37.4%であった。

# 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり(おうちの大人と文化活動をするか) (子ども票 問 109)

#### <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

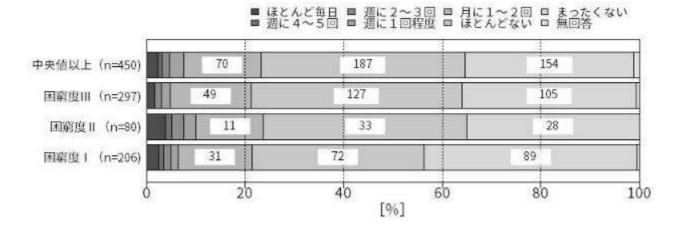
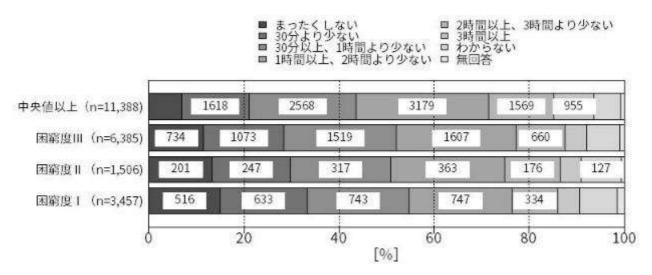


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と文化活動をするか)

困窮度別に保護者と子どもの関わり(おうちの大人と文化活動をするか)を見ると、困窮度 I 群では、「まったくない」と回答した人が 43.2%であった。



# <大阪市住之江区>

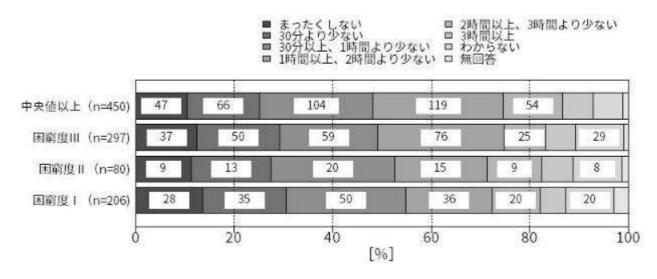
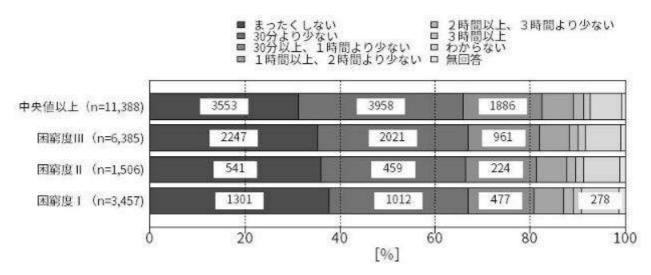


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30分より少ない」・「1時間以上、2時間より少ない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は13.6%であった。



# <大阪市住之江区>

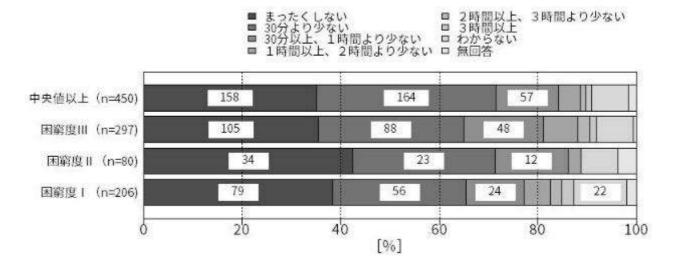
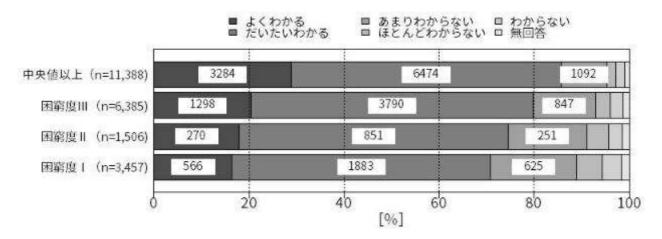


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は 38.3%であった。

# 困窮度別に見た、学習理解度(子ども票 問18)

## <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

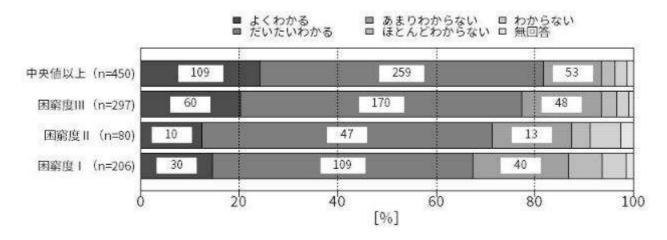
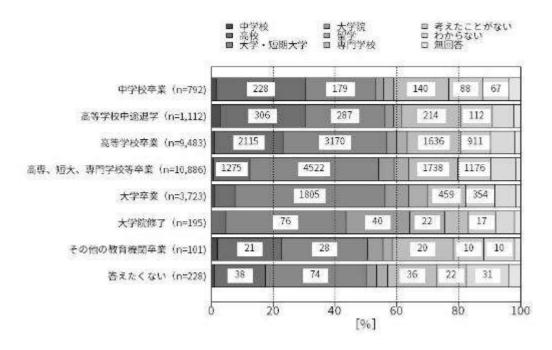


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人は 11.7%であった。



### <大阪市住之江区>

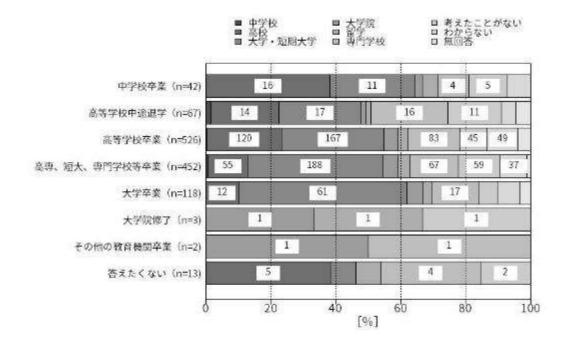
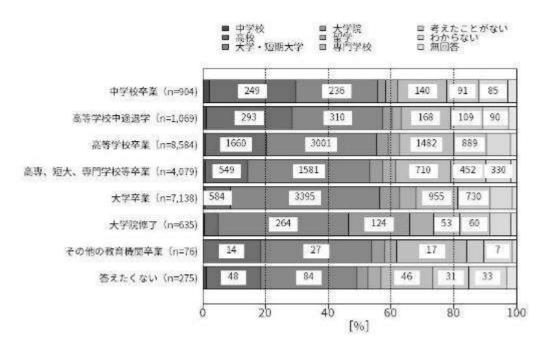


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒、高校中退者または高卒では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。



### <大阪市住之江区>

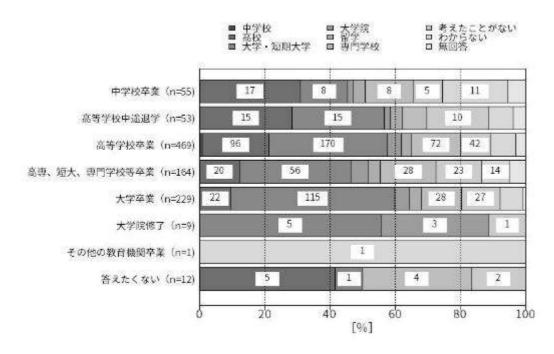
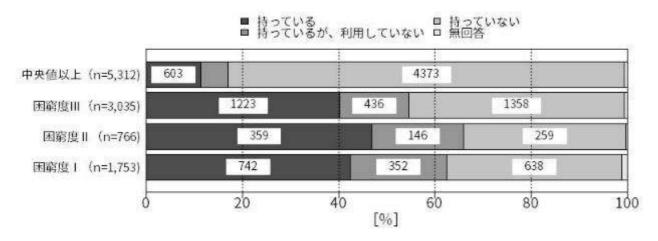


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒、高校中退者または高卒では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。



# <大阪市住之江区>

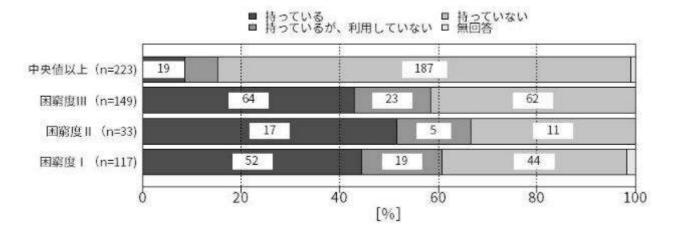
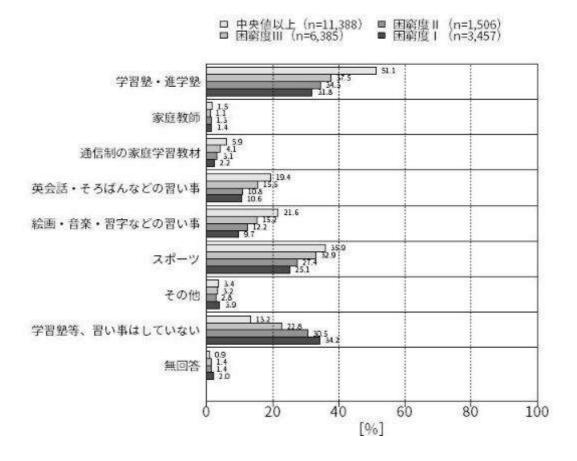


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度 I 群では、塾代助成カードを「持っている」が 44.4%であったのに対し、困窮度 II 群では 51.5%、困窮度Ⅲ群では 43%であった。

# 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況 (子ども票 問 15)

# <大阪市 24 区>



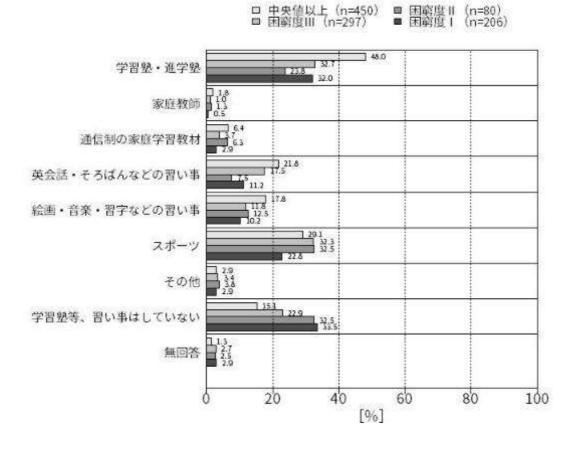
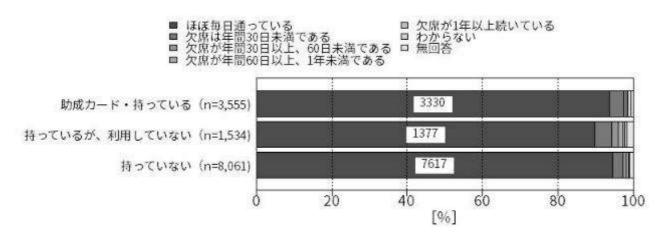


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度 I 群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が 32%であったのに対し、困窮度 II 群では 23.8%、困窮度Ⅲ群では 32.7%であった。



# <大阪市住之江区>

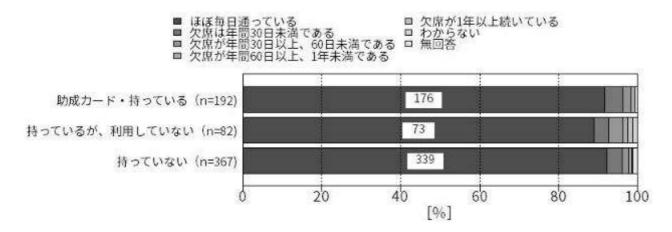
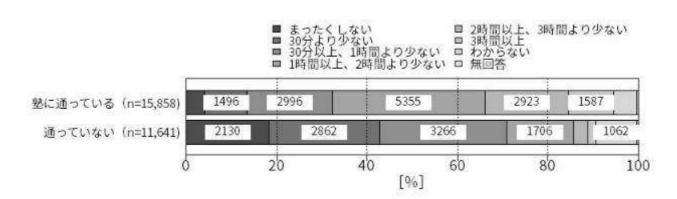


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードを持っていない人は、子どもが学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合が 92.4%であったのに対し、持っているが利用していない人が89%、持っている人が91.7%であった。



## <大阪市住之江区>

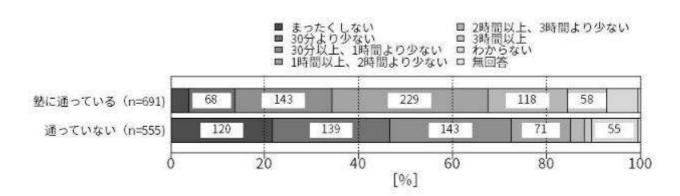
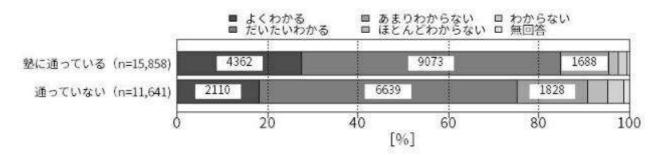


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が 21.6%であったのに対し、塾に通っている人は 3.8%であった。

# 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度 (子ども票 問 15 × 子ども票 問 18)

## <大阪市 24 区>



#### <大阪市住之江区>

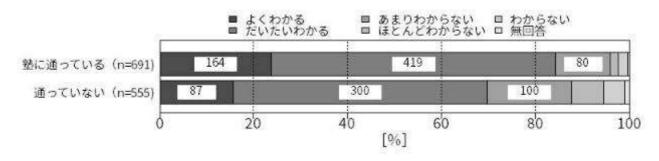
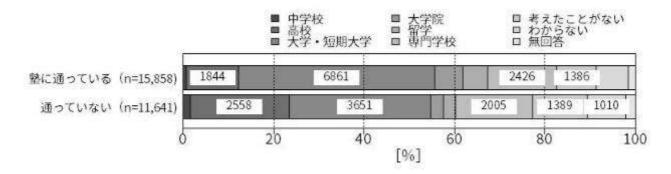


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が 15.7%であったのに対し、塾に通っている人は 23.7%であった。

# 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先 (子ども票 問 15 × 子ども票 問 27)

## <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

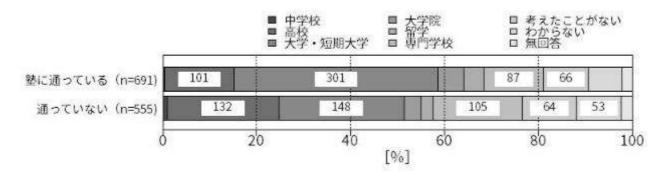
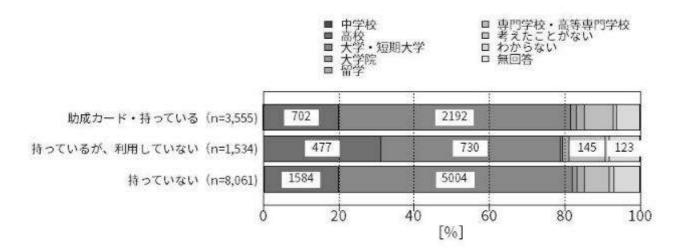


図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 26.7%であったのに対し、塾に通っている人は 43.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先 (保護者票 問 18 × 保護者票 問 15)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市住之江区>

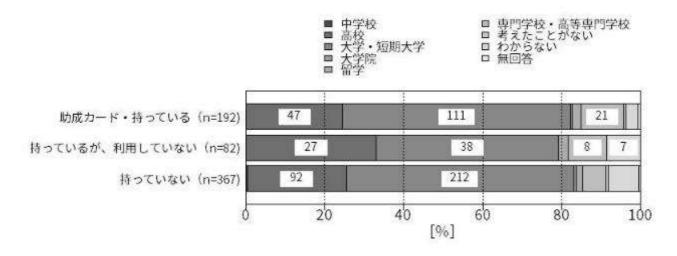
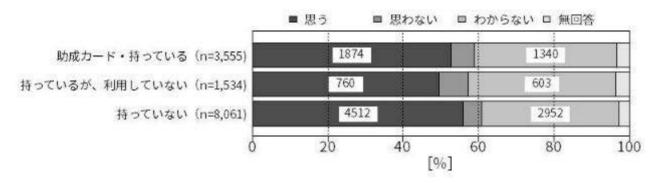


図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 57.8%であったのに対し、持っているが利用していない人が 46.3%、持っている人が 57.8%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測 (保護者票 問 18 × 保護者票 問 16)

## <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

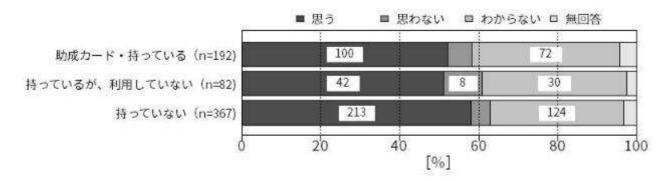
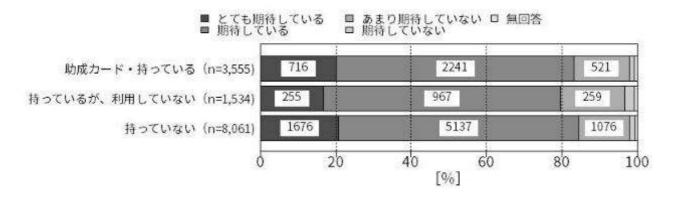


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が58%であったのに対し、持っているが利用していない人が51.2%、持っている人が52.1%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもへの将来の期待) (保護者票 問 18 × 保護者票 問 14(4))

## <大阪市 24 区>



## <大阪市住之江区>

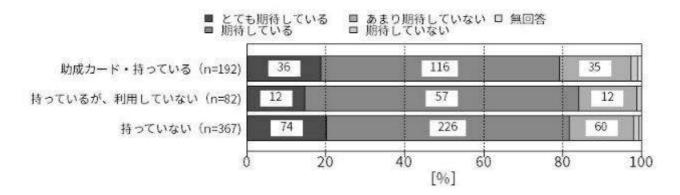


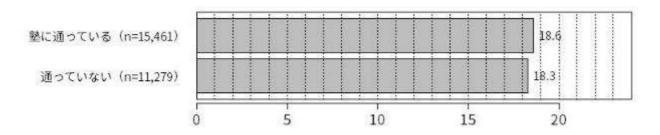
図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの将来の期待)

塾助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が20.2%であったのに対し、持っているが利用していない人が14.6%、持っている人が18.8%であった。

# 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー (子ども票 問 15 × 子ども票 問 26(1)~(6))

※子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)については図148上の説明参照。

# <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

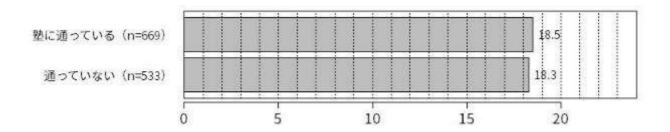


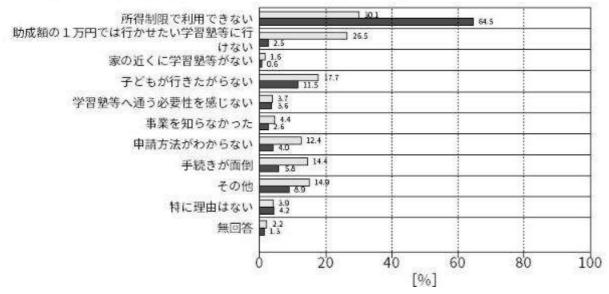
図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感(セルフ・エフィカシー)の平均点が 18.3 点であったのに対し、塾に通っている人は 18.5 点であった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由 (保護者票 問13の9 × 保護者票 問20)

#### <大阪市 24 区>

□ 学習塾に通わすことができなかった(n=925) ■ その他(n=5,822)



#### <大阪市住之江区>

□ 学習塾に通わすことができなかった (n=56) ■ その他 (n=257)

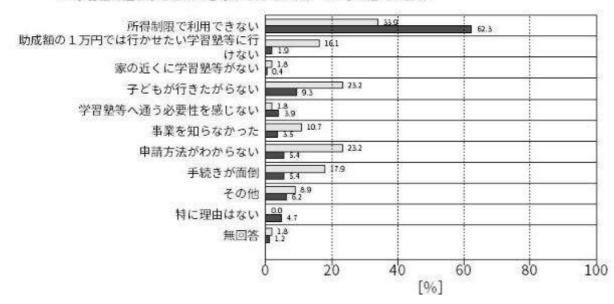
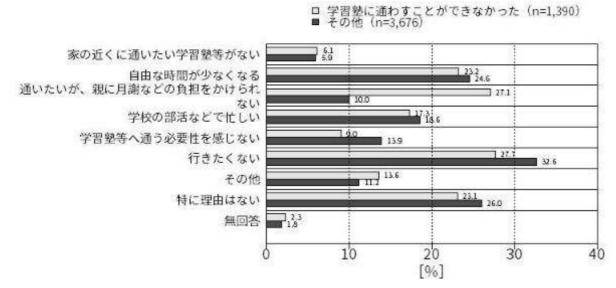


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「所得制限で利用できない」という理由で塾代助成カードを持っていない人が 33.9%ともっとも多かった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由 (保護者票 問 13 の 9 × 子ども票 問 17)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市住之江区>

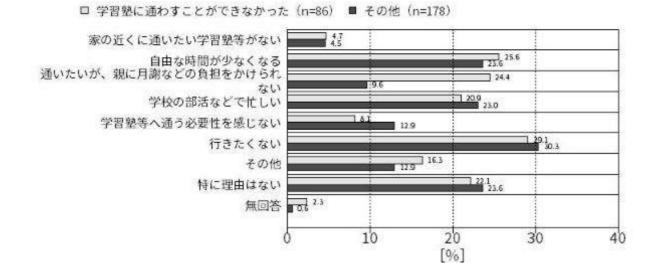


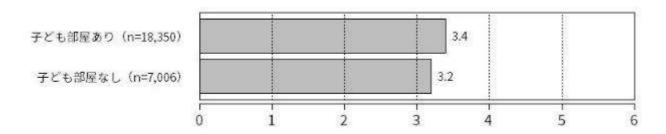
図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「行きたくない」という理由が29.1%ともっとも多かった。

# 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値(子ども票 問 25 の 3 × 子ども票 問 14)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

#### <大阪市 24 区>



### <大阪市住之江区>

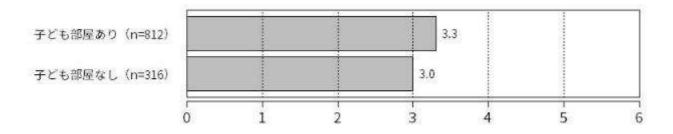
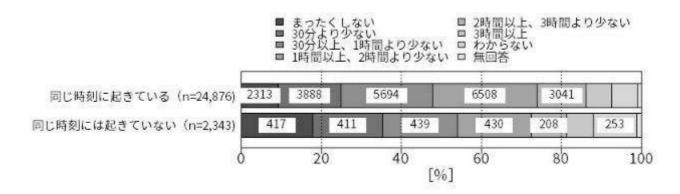


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある場合は3.3時間、子ども部屋がない場合は3.0時間であった。



# <大阪市住之江区>

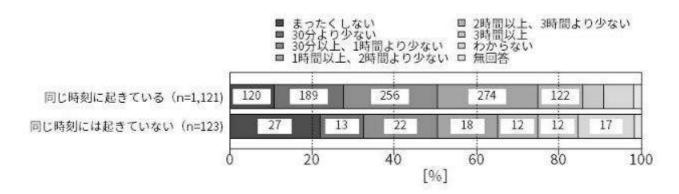
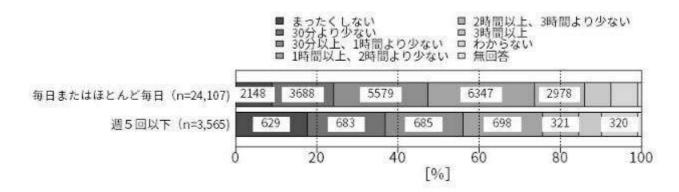


図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問2において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は22%となっている。



# <大阪市住之江区>

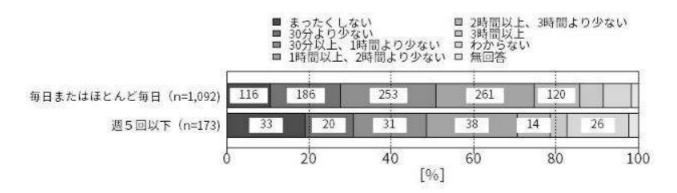
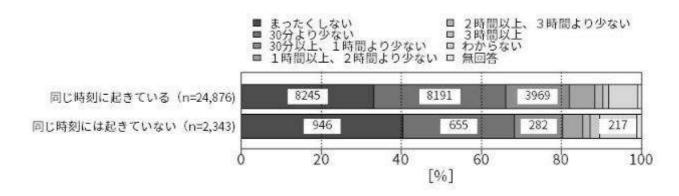


図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問5において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども(無回答除く)を「週5回以下」としている。朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは17%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ23.2%、23.9%、11%であった。



# <大阪市住之江区>

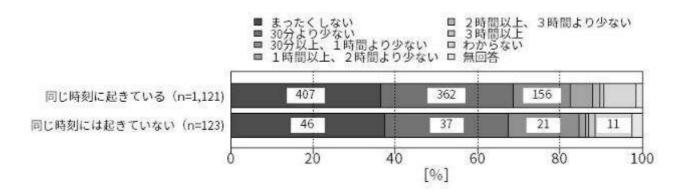
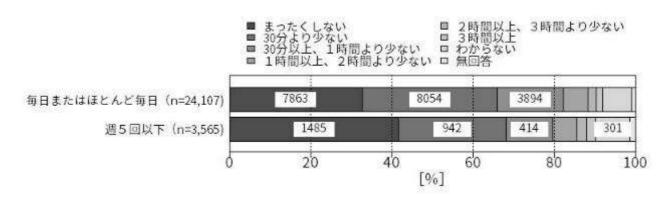


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は 37.4%であった。



## <大阪市住之江区>

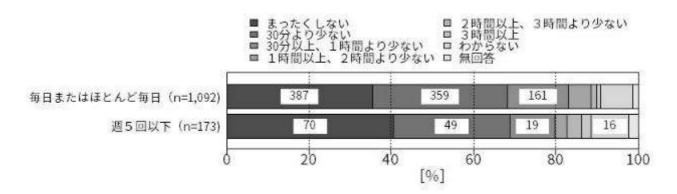


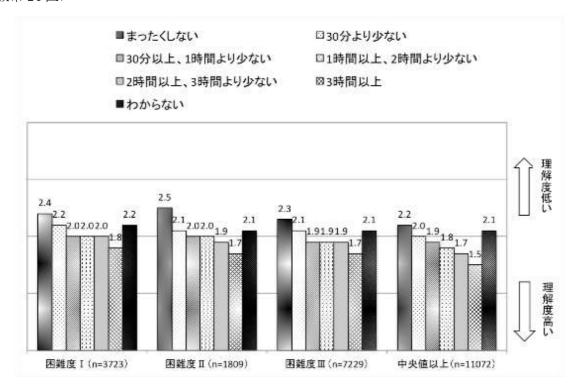
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは35.4%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ14.7%、5.4%、1.4%であった。

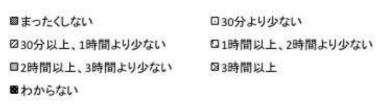
## 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連(子ども票 問18)

※学習理解度について、「1. よくわかる」~「4. ほとんどわからない」まで 4 項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

# <大阪市 24 区>



## <大阪市住之江区>



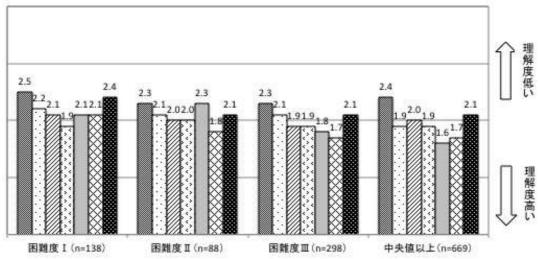
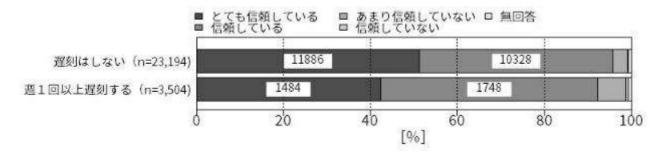


図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

どの困窮度においても、勉強の理解度が低いほど勉強時間が短かった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり(子どもへの信頼度) (子ども票 問9 × 保護者票 問14(1))

#### <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

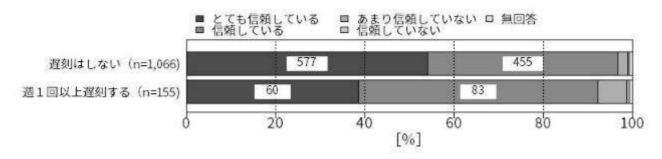


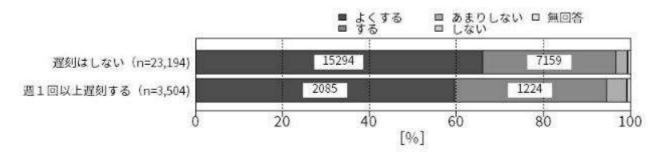
図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもへの信頼度)

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外 を選択した子ども (無回答除く) を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり(子どもへの信頼度)を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が 54.1%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が 6.5%であった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり(子どもと会話) (子ども票 問9 × 保護者票 問14(2))

#### <大阪市 24 区>



## <大阪市住之江区>

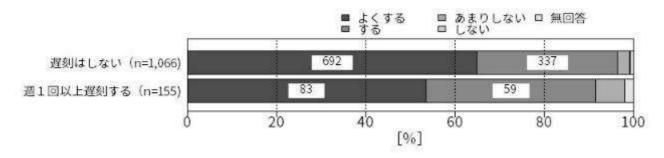


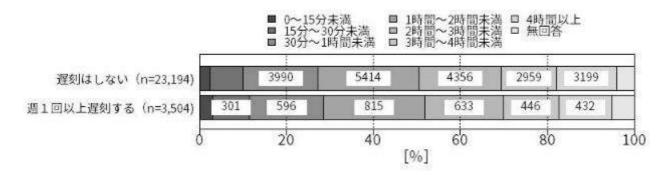
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもと会話)

ここでは、子ども票間9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外 を選択した子ども(無回答除く)を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり(子どもと会話)を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は会話を「よくする」割合が 64.9%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は会話を「あまりしない」割合が 6.5%であった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり (子どもと一緒にいる時間 (平日)) (子ども票 問9 × 保護者票 問14(3))

#### <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

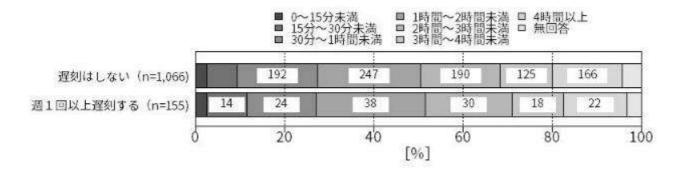
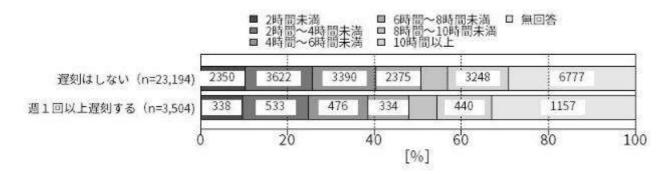


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと一緒にいる時間(平日))

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(平日))を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「30分~1時間未満」「4時間以上」の割合がそれぞれ 18.0%、15.6%であった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり (子どもと一緒にいる時間 (休日)) (子ども票 問9 × 保護者票 問14(3))

#### <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

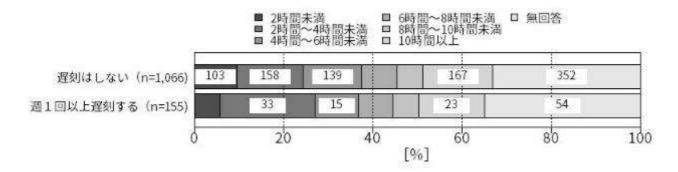
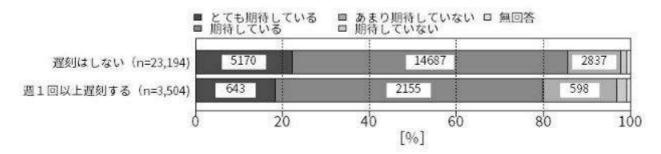


図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと一緒にいる時間(休日))

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり(子どもの一緒にいる時間(休日))を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2時間未満」「2時間~4時間未満」「4時間~6時間未満」の割合は、それぞれ 9.7%、14.8%、13.0%、であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、「2時間未満」「2時間~4時間未満」「4時間~6時間未満」の割合は、それぞれ 5.8%、21.3%、9.7%であった。また、いずれも無回答の割合が高かった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり (子どもへの将来の期待) (子ども票 問9 × 保護者票 問14(4))

#### <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

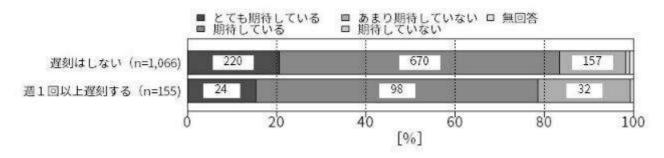
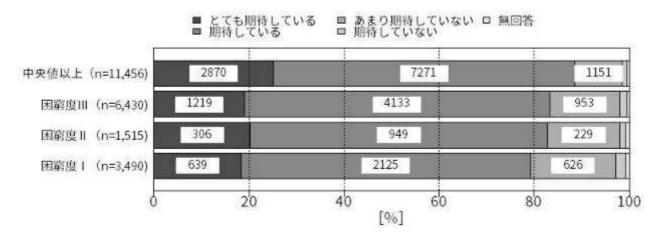


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの将来の期待)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり(子どもへの将来の期待)を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合は、20.6%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、15.5%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもへの将来の期待) (保護者票 問14(4))

#### <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

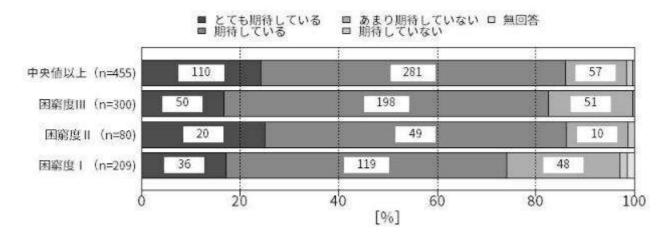
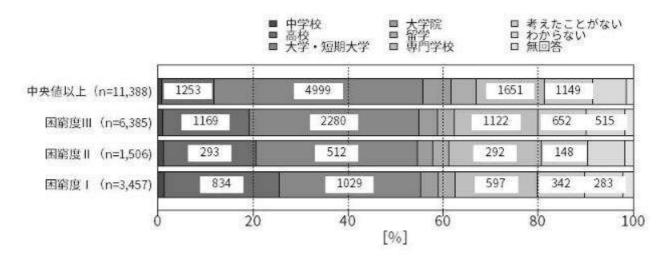


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの将来の期待)

困窮度別に保護者と子どもの関わり(子どもへの将来の期待)を見ると、困窮度が高まるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」が増えている。困窮度 I 群では、「あまり期待していない」「期待していない」を合計すると 24.4%であった。

# 困窮度別に見た、希望する進学先(子ども票 問27)

## <大阪市 24 区>



## <大阪市住之江区>

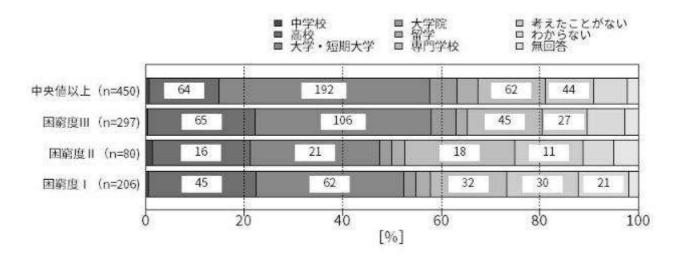
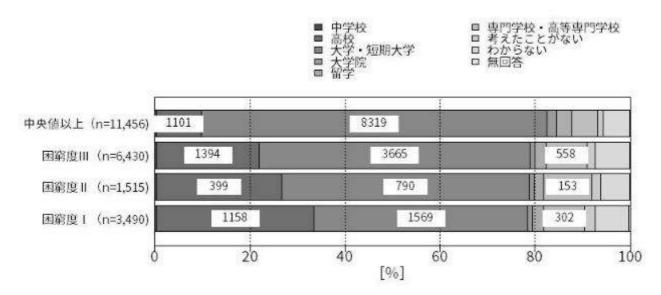


図 239. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度 I 群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 22.3%、「専門学校」と回答した子どもは 15.5%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、42.7%であった。



#### <大阪市住之江区>

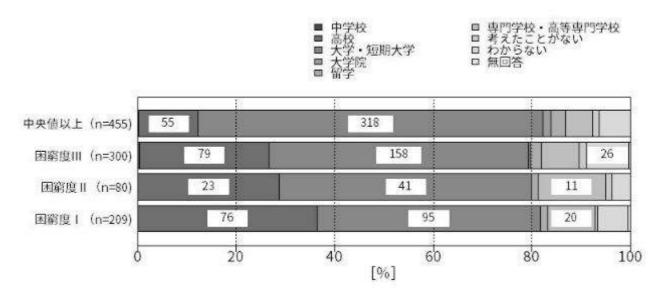
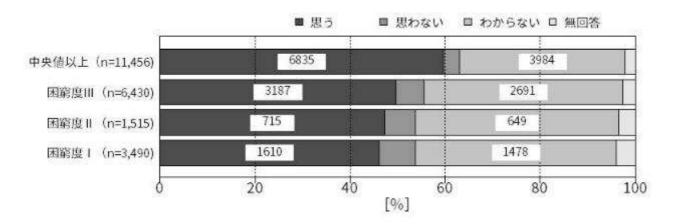


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測(保護者による)を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度 I 群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 36.4%、「専門学校」と回答した人は 9.6%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、69.9%であった。

# 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測(保護者票 問 16)

## <大阪市 24 区>



# <大阪市住之江区>

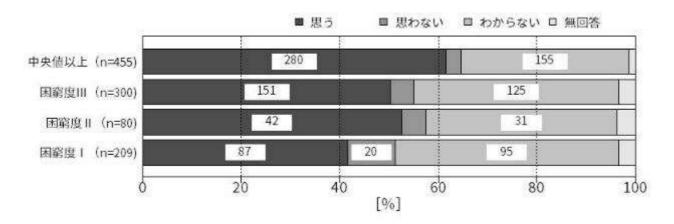
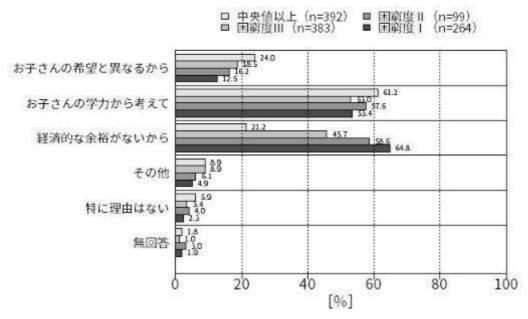


図 241. 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測

困窮度別に子どもの進学達成予測(保護者による)を見ると、困窮度が高まるにつれ、「思わない」と回答した保護者の割合が高くなっている。困窮度 I 群では、「思わない」と回答した人は合計 9.6%であった。中央値以上群において「思う」と回答した割合は 61.5%であった。



# <大阪市住之江区>

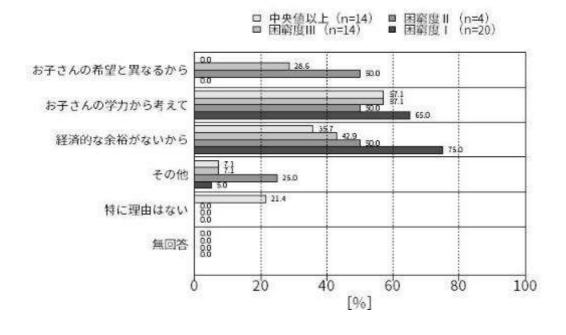


図 242. 困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

困窮度別に子どもの進学達成「思わない」理由(保護者による)を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群とで最も差が大きいのは「経済的な余裕がないから」、次いで「お子さんの学力から考えて」である。困窮度 I 群において「経済的な余裕がないから」と回答した人は 75%であった。